

	課題分析	授業改善策
国語	<p>話すこと・聞くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防のため、全体の場で話す機会が減り、マスクも相まって、自信をもって話せない児童が増えた。 ・小グループの話し合いは、好きな児童が多いが、グループによっては、活発に話し合いができないことがある。 <p>書くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作文では、何を書いたらよいか思い付かない児童がいる。 ・文字を丁寧に書くことが習慣になっていない児童がいる。また、漢字習得の個人差が大きい。字形を正確に捉えて、書き写すことができない。 <p>読むこと・読書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読解力が低い児童がいる。文節を捉えて読むことや、前後の文の関係を捉えて読むことに課題がある。 ・全体的に読書量が少ない。学年相応の本を選ぶことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に、場に応じた話し方ができるよう、クラスの前で話す場を設け、適切な声の大きさや話し方の指導を継続する。 ・どのグループも活発な話し合いができるよう、話し合いの前に、目的や方法を明確にする。 ・めあてと振り返りの整合性を意識した授業作りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・主体性を育むため、文章を書く際、手書きかタブレットか選べるように個別最適化を図り、友達からも学び取る力を付けるために、書く内容について意見交換する時間を設ける。 ・丁寧な文字を書く習慣が身に付くよう、特に低学年での文字の指導は根気強く丁寧に行う。また、学年が上がっても、書き順や字形を丁寧に指導する。字のつくりと意味を結びつけて指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・文のつながりを意識して読ませる補助発問を意図的に取り入れ、内容を読み取れるようにする。 ・正しい発音の習得や語彙を広げるため、音読の指導を継続して行う。 ・カードの色を変えていくなど読書記録を工夫し、個人の記録を積み重ねることで、これまでの読書を振り返り、さらに読みたいという意欲へとつなげられるようにする。 ・図書室の掲示を工夫し、本を手に取りやすくする環境をつくる。 ・学校図書館支援員と連携して選書や読書指導にあたる。 ・ICTを活用した読書の取り組みを推進する。
	社会	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題意識をもち、すすんで単元の学習を進めようとする児童の姿が少ない。 ・学習活動を部分的に楽しむことはできるが、受け身の学習姿勢が目立ち、自ら調べたり学んだりすることが不得手である。 ・体験活動は意欲的に行うが、その後の学習

	<p>や生活に活用できる力を効果的に育てたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識の理解に個人差が大きくある上に、区や、都道府県の地名や特色など基本的な事柄が未習得な児童が多い。 資料の読み取りが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの暮らしにあてはめたり、比べたりしながら理解を深めさせ学習内容をしっかりと理解させる。 各所の具体的な特色などを写真や絵などを併せながら提示するなど理解を進めるための教材提示の工夫をする。 発達段階や本校の児童の実態に合わせて内容や難易度、提示方法等を工夫する。写真、グラフ、図、映像資料等精選して ICT を取り入れて提示する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> かけ算九九や、たし算・ひき算の筆算などの計算を身に付けている児童は多いが、定着に時間がかかる。 数学的な思考力が必要となる問題を苦手と感じている児童がいる。単元、授業の中で、教員が考えさせる時間と定着を図る時間を見極め、取り組む必要がある。 測定や図形の学習では、量感、測定方法、単位換算をなかなか理解できない児童がいる。 高学年では、文章題の内容を数直線に表して考える方法が身に付くように指導している。割合を使った考え方で、数直線を用いることに慣れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、練習問題を解く時間を設けるようにし、計算方法に慣れさせる。タブレットを用いて、それぞれの理解度に合った問題を解くようにさせる。家庭学習で、計算練習や問題練習に主体的に繰り返し取り組ませていき、できたことを価値付け、さらなる定着を図る。また、習熟度別学習を生かし、個別指導が必要なクラスは授業者と T2 の複数体制で指導を行う。 課題把握の場面で、何を求めているのかをはっきりさせてから問題を読み取る経験を積ませるとともに、具体物、図などを使いながら問題場面を理解させ、それを用いて問題解決していく。 授業の中で児童に考えさせたいことを明確にし、めあてとまとめをつなげられるような授業の流れを工夫する。 日常生活の経験を振り返り、学習に生かしたり、単位換算においては法則性などを楽しんで見付けにしたりして、苦手意識をもたないように子供が選べる場面をつくるなど、主体的な活動を大切にし、経験を積みせていく。 低・中学年から、ICT を活用して、ドット図や線分図、数直線などの図をよみ取ったり、かいたりする活動を積極的に取り入れ、図のよさを感じるように指導をしていく。系統的に学習できるようにする。文章問題では、もとになる数（1 に当たる数）が何かを考えさせてから課題に取り組みせる。それにより、比べられる数と、もとにする数との関係性を理解させる。 めあてとふり返りの整合性を意識した授業で、一時間に何を学んだのか意識できるようにし、学びに向かう力を育む。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 生き物の観察記録では、どこをスケッチするか、記録には何を書くか指導したが、理解できない児童も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察記録では対象物の特徴をしっかりと捉えさせるよう指導をし、絵で表す部分を分かりやすく示したり、記録する観点を書いた紙をノートの下に貼らせ、いつでも見返したりできるようにする。また、適宜タブレ

	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察では、児童が予想し見通しをもって学習に取り組んでいる。しかし、科学的な根拠のある予想や仮説をもたせることの指導は不十分である。 ・結果と考察を混同してしまい、結果から分かったことを見出せない児童もいる。 ・知識の定着について個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットも活用して観察記録が作成できるようにする。 ・既習事項や体験から根拠をもって予想や仮説をたてられるように指導していく。児童に多くの体験をさせて、日常生活との接点を感じられるように指導をする。個に応じた声かけも意識する。自分の考えをもてるように、考える時間を取った後、話し合い活動を取り入れる。児童の発見や疑問を大切にして、記録できるようにし、主体性を育む。 ・実験終了後には、自ら結果の分析をし、考察が書けるよう、書く視点を指導する。 ・事象の変化について説明したり、書いたりする活動を取り入れ、自分の考えを表現することができるようにさせる。考えがもてない児童には個別に予想や結果から観点を与えるなどの支援をする。 ・学習した知識が定着するように、授業の最初に前時の内容の振り返りをしたり、確かめプリントなどを作成したりし、定着を確認する。タブレットのドリルパークなども適宜活用していく。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の関係で、自然の観察や児童同士の交流などの活動の実施に課題がある。 ・観察をして思ったことや感じたことを、自分の言葉で表現することに課題がある。 ・観察する対象の特徴を捉えて絵を描くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影した写真や動画を視聴、ZOOMのような機能を活用、個に応じた、タブレットを活用するなど、間接的な交流で活動を工夫する。 ・思ったことや感じたことを話し合う場を設け、主体性を育み、板書して共有することで、書く際に参考にできるようにする。 ・ICT等を活用して、特徴を押さえたり、見本を提示したりすることで、観察や記録の仕方のポイントを指導する。 ・めあてと振り返りを意識した授業作りで、1時間の中で学びの達成感をもたせる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律をよく聴き取りながら、音程に気を付けて歌おうとしている児童が多いが、マスク生活に慣れ、表現活動に消極的な児童もみられる。 ・楽器を扱う活動を楽しみにしている児童が多いが、読譜、楽器の演奏技能、技能の習得までの時間は個人差が大きい。 ・鑑賞においては、楽曲に興味をもち、音に着 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱はマスクをしながらの活動のため音量を求められないが、少しずつ発声や表現の工夫を共有する場を設定していく。感染状況を見ながら、友達同士の活動も取り入れ、主体性を育む。 ・感染症予防対策で、鍵盤ハーモニカやリコーダーの演奏は短時間、かつ一斉ではなく半数ずつ行っているため、指導に時間がかかるが、個を大切にし、限られた時間で演奏聴取もできるようにしていく。 ・個人で簡単な旋律やリズムづくりの経験を積ませていく。 ・目的に合った音源や映像を見付け、よい音楽に触れ、

	<p>目して聴けるようになってきた。</p>	<p>音楽的感性を育てていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のふり返りをもとに学んだことをはっきりさせて、次時への学習意欲を高める。 ・ICTの活用を意識した授業作りを行う。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動に自信がない（もてない）、他者と比較して萎縮してしまう児童がいる。 ・技能の定着には個人差があり、表現したいものに対して不十分だと見て取れる場面がある。 ・活動過程の見取りが十分ではない。 ・題材の目標と活動内容がしっかり合致しておらず、児童の取り組みがめあてからずれている場面があった。 ・グループでの活動、とりわけ、場や空間を共有する造形遊びを十分に行えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分なりの発想を広げ、思いを深められるよう、題材の設定や導入の方法を工夫する。また、表現の良さを教師側が言語化することで活動を価値づけ、主体性を育む。 ・用具の使い方を実演して見せるなどして、個別指導を徹底する。学年を越えて繰り返し指導していくことで、技能を定着させていく。 ・机間指導の充実を図り、毎時の記録を行う。特に、自ら教師に声をかけてこない児童については見取りの回数を増やし、個に応じた、思いを引き出す問いかけを行う。 ・目標と評価の見直しを行う。（児童の実態に応じて吟味） ・感染症の状況を鑑みつつ、グループ活動の方法を検討していく。（人数や場所、時間を限定するなど） ・ICTを活用した授業デザインに取り組んでいく。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・手作業が苦手な児童が増えている ・家庭での経験に差が大きい。例) 買い物や包丁を使う、火を扱う。 ・家庭でも試してみる。さらに調べるなど、深い学びにつなげること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・方法を多様に示して児童が解決方法を選択できるようにする。例) 教科書をみる・動画を見る。教え合う。作業工程ごとの見本を参考にする等。 ・家庭科だよりを出して保護者の関心を高め、学びの意図を伝える。 ・買い物に関しては移動教室でのお土産購入体験を学びの共通体験にする。 ・ICTを使って学習したことをそのまま家庭にもちよって調べたり試したりしやすくする。 ・めあてとふり返りを大切に授業デザインで指導と評価の一体化を図る。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の学習への意欲に差がある。個人によって運動経験や運動能力に大きな差が見られる。恐怖心や不安感などからマット運動や鉄棒に取り組めない児童もいる。 ・技能面の習得に十分な時間の確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップで技能ポイントの指導を行う。教材研究をし、授業の中でどこまでを目指すかを考える。体育の時間で完結を目指すのではなく、一つのきっかけとして、休み時間にも行いたいと意欲が高まるよう言葉がけをしていく。 ・技能のポイントを明確にするとともに、個に応じた課題設定をすることで、目標をもって運動に取り組み、課題解決して達成感を味わわせていく。 ・児童にとって、勝敗以外にも、公平性などの体育の学

	<ul style="list-style-type: none"> ・関わり合いながら学ぶ場面が少なかった。また、低学年では勝敗にこだわる児童が多かった。 ・次の活動の見通しがもてない児童が多い。 ・自己の成果、課題を自覚できていない児童がいる。そうしたことから達成感や意欲をもてない児童がいる。 ・集団行動の経験が少ない。 	<p>習価値を伝えていくようにする。チームの中でよい点を伝え合う際も、のような価値があるのか等、児童にとって必要感のある学びになるよう動機付けする必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れをはっきりとさせる。例えば、 ① あいさつ ②準備運動 ③めあて ④ポイントタイム ⑤チャレンジタイム ⑥共有 ⑦片付け ⑧整理運動 ⑨振り返り ・準備と片付けでは、時間を測り、見える化を行う。 ・振り返りの視点を明確にすることで、自己の成果、課題を意識して、次時への学習意欲を高める。 ・体育朝会で学習したことを、各学級の体育の学習でも継続して丁寧に指導していく。 ・ICTを活用し、運動を録画したり、記録したりすることで振り返りができるようにする。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ答える場面が苦手な児童がいる。 ・交流活動が少ない。 ・個人の振り返りがパターン化している。 ・視聴覚教材の活用や学年の連携を深めて授業をしているが学習内容への理解が高まるように、もう少し効果的に行いたい。 ・外国語科が教科化したことにより、技能を高めるための指導に課題がある。 ・外国語に対して苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗してもよい雰囲気をつくり、個々が自分を大切に学べるようにする。 ・ゲームの開発をしていく。 ・振り返りの観点をしぼって振り返りを書かせる。 ・A L Tとの役割分担を明確にして授業をすすめる。 ・授業スタイルを確立していく。 ・書く活動や覚える学習を取り入れる。 ・苦手意識をもつ児童への指導の工夫を開発し、主体性を高める。 ・ICTを活用し、外国語への興味が高まるようにする。